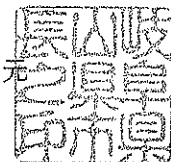




山基第 218 号
平成19年5月9日

国土交通省道路局長 殿

岐阜県山県市長 平野 元



中期的な計画の作成に当たっての意見書の提出について

平成19年4月2日付け国道企第114号により依頼を受けた標記の件につきまして別添のおり意見書を提出いたします。

道路の中期的な計画作成に当たっての意見書

岐阜県山県市

山県市は、平成15年4月1日旧山県郡の高富町、伊自良村、美山町の3町村が合併し、平成の合併としては、東海3県で第1号として誕生した市でございます。

面積は、222.04km²、人口は平成19年4月1日現在30,870人で、山林が80%以上を占める中山間地域の小規模な市でございます。

地勢的には、県都岐阜市の北側に隣接しており、北部地域は自然環境に恵まれ、中南部は住宅や産業基盤などが集積した地域となっています。

近年の少子・高齢化という時代の流れは、当市においても変わらず、経年的に著しく進行しています。

少子・高齢化の進展は、経済成長の鈍化や投資余力の減退をもたらすほか、地域社会の活力にも大きな影響をもたらすこととなります。

これを打開するため、市では市民の暮らしや産業、交流を支える重要要素である道路、交通網の整備として、高規格道路である東海環状自動車道及び(仮称)山県インターチェンジ並びにアクセス道路である国道256号バイパスの早期整備を重点項目に掲げ、活動を推進しております。

東海環状自動車道及び(仮称)山県インターチェンジの建設は、企業誘致、雇用の確保等が図られることから、大きな経済効果が期待され、市の活性化につながって参ります。

また、移動の利便性が図られることにより、観光、交流機能の強化を推進することができます。

以上から、道路特定財源の見直しに関する具体策として、道路政策の重点化を進める上で高規格道路である東海環状自動車道の整備は、真に必要な道路計画であると考えます。

東海環状自動車道及び(仮称)山県インターチェンジの完成が、山県市の夜明けになると期待しております。

また、中山間地域である本市では、交通手段として人口の9割以上が自動車に依存しており、市民が安心して暮らせる地域社会を形成するためには、国道等幹線道路の整備が課題となっており、地方における幹線道路の整備推進が重要であると考えます。